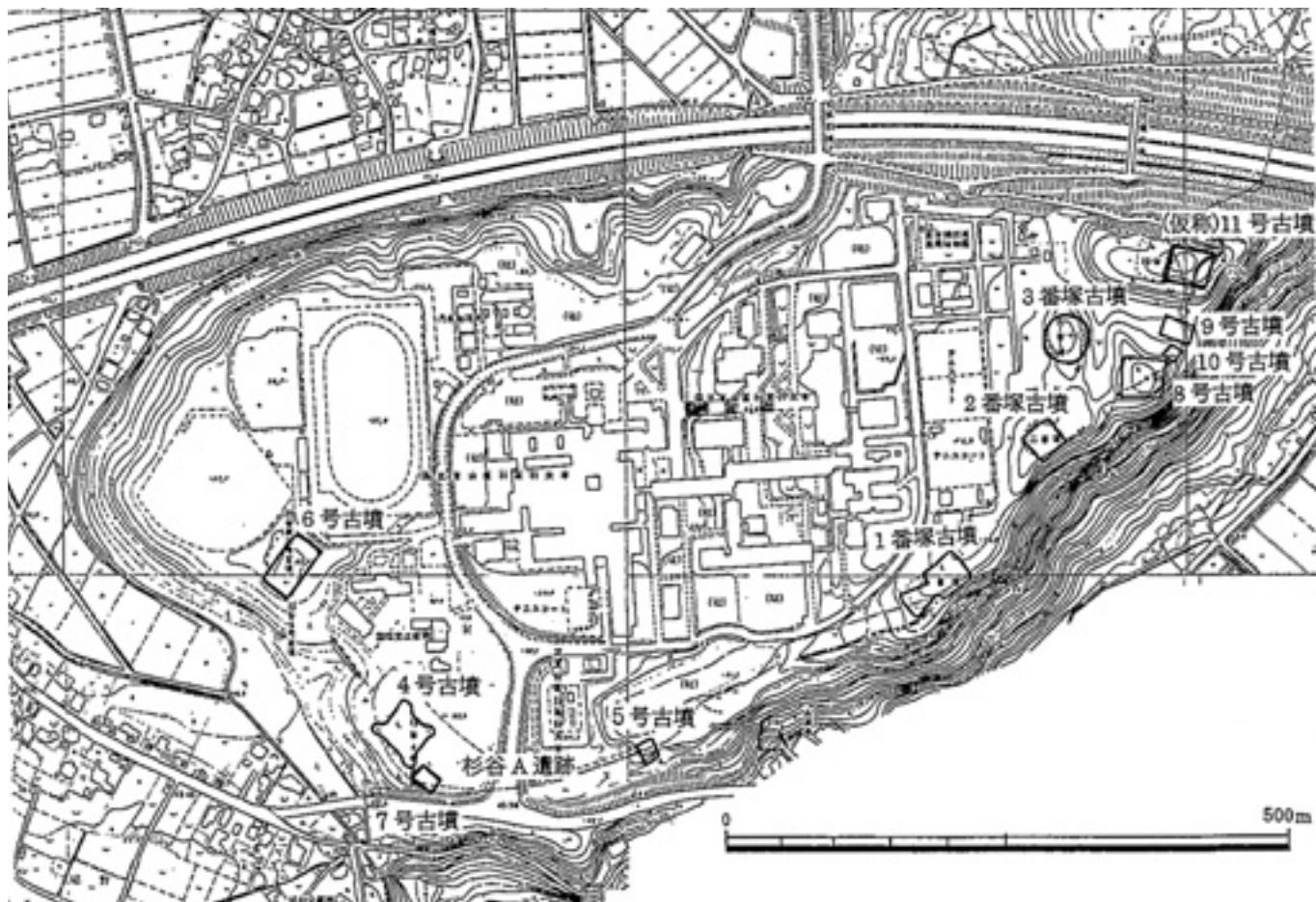


杉谷4号墳、6号墳の調査

とっておき埋文講座②

富山大学人文学部 准教授 高橋 浩二



杉谷4号墳、6号墳の位置 (古川1999を一部改変)

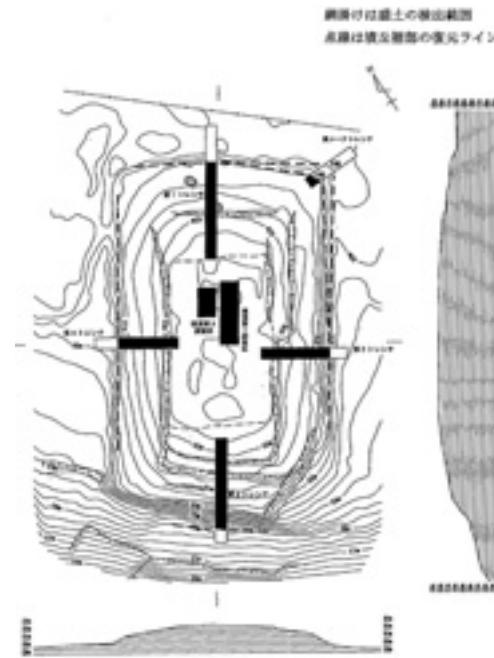
はじめに

富山大学では、杉谷キャンパスにある富山市杉谷古墳群の調査を続けています。杉谷古墳群の場所は、富山県の中央を東西に分ける呉羽丘陵にあります。杉谷キャンパスの附属病院の裏のほうの奥の部分になります。杉谷古墳群の調査の歴史は古く、富山市教育委員会による調査が1974年に行われています。この調査で杉谷4号墳は、一辺が約25mの方形を基調とし、隅部に突出部が付く「四隅突出型墳丘墓」であることなどが明らかにされました。

杉谷6号墳の調査

杉谷6号墳は1974年に富山市教育委員会が試掘調査をし、長さ45m、幅30m、高さ約2mの規模をもつことが明らかにされました。しかし、この時の調査では、遺物は発見されませんでした。

富山大学では、2010年に墳丘北側、南側、東側、西側、2011年に墳頂部、墳丘東側コーナーの調査を行いました。この調査の成果として次のことが挙げられます。墳丘は長さが49.5m、幅28m、



杉谷6号墳の測量図

高さ2~4mの長方形であること、突出部や周溝は存在しないこと、盛土は外側から内側へ向かって積まれており、また平坦面を作りながら積み上げられていることなどが分かりました。方墳としては北陸最大の大きさになります。今回の調査でも埋葬施設は不明で、古墳に関する遺物は発見されませんでした。また、細長の長方形の形は、弥生時代の墳墓に認められる特異な形態と言えます。

杉谷4号墳の調査

杉谷4号墳も杉谷6号墳と同じく、1974年に富山市教育委員会が調査を行っています。隅部に長さが約12mで、先端がバチ状に広がる

突出部が付く「四隅突出型墳丘墓」であること、また周溝を含めると、一辺が約47~48mの大きさであることなどが明らかにされました。

富山大学では、6号墳の調査に続いて2012年から4号墳の調査を続けています。第1次調査では東側突出部を発掘し、東側突出部は先端部が広がったバチ形を呈し、規模は方形部東側コーナーの現墳裾から測ると長さが約10.5m、最も幅の広い箇所は約13.5mから15.5mになること、東側突出部周溝は、墳丘側が広く深く、先端部側が狭く浅いことが明らかになりました。第2次では南側突出部周辺、第3次では墳丘南東側、墳丘北西



側辺を調査し、南側突出部はすでに削平されている可能性が高いこと、墳丘南東側の周溝底面近くで8世紀後半~9世紀初頭の須恵器杯が出土しており、この箇所の周溝が長期間開口していたことがわかりました。西側突出部の近くで周溝が見つかっていますが、西側突出部は確認できませんでした。第4次では墳丘東側斜面、墳丘北東側斜面と周溝を調査しています。この調査では初めて、墳丘斜面を墳裾部から墳頂部まで通して発掘しました。その結果、旧表土（築造当時の地表面）の上に積み上げた盛土の高さが、墳丘東側で約2.5m、墳丘北東側で約2.45m残っていることが明らかになりました。第1次調査で約700点、2次で47点、3次で107点、4次で75点の遺物が出土しました。しかし、埴輪のようなものは確認されていません。

今後の課題

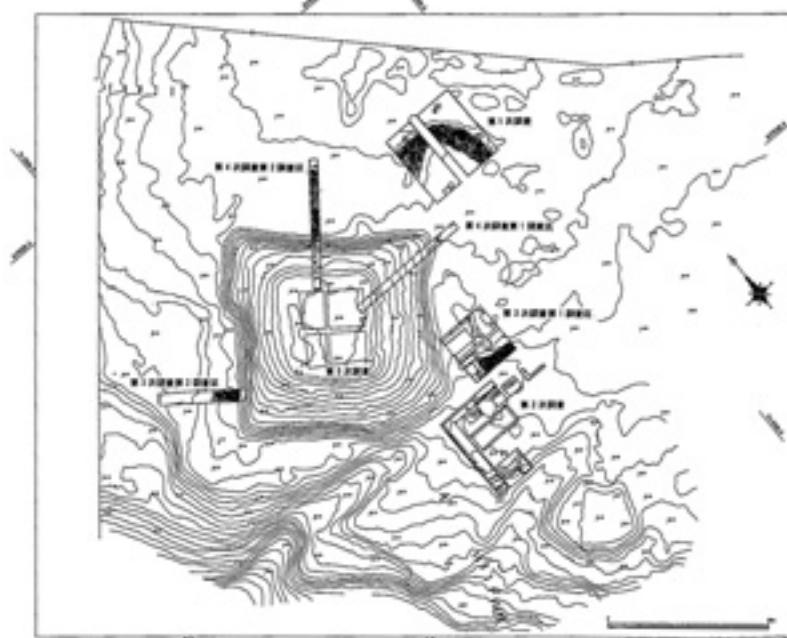
杉谷4号墳、杉谷6号墳の築造時期、杉谷古墳群の成立時期と変遷、杉谷4号墳と中国・山陰地方、北陸地方の四隅突出型墳丘墓との関係、杉谷4号墳の被葬者などの解明が挙げられます。

平成29年7月9日
第2回県民考古学講座

〈引用文献〉
富山市教育委員会1974『富山市杉谷地内埋蔵文化財予備調査報告書』
古川知明1999『杉谷古墳群』『富山平野の出現期古墳発表要旨・資料集』富山考古学会

第3表 羽根丘陵及び奥羽丘陵における主な墳丘墓・古墳の変遷					
時代	高槻2007	土器編年	羽根丘陵 (富塚)	真羽丘陵 (六呂吉塚)	真羽丘陵北端 (百塚佐吉・百塚遺跡)
弥生時代	3群期	富崎3号墓 × 喜塚 × 1-2号墓 ×	× 前加1-2号墓	× 六呂吉塚	
	4~5群期				杉谷4号墳
	6群期	富崎千足 9号墳 ↑			S203 ↑
	7群期	9号墳	内野塚 ↑		S204 ↑
古墳時代	8群期		新羽塚古墳		S202 ↑
	9群期		王塚古墳		S201 ↓
	10群期				
	1期				
古墳時代	2期				
	3期				
	4期				

* 土器編年は高槻2007に基く。×: 墓内出雲塚且基、■: 前方後方塚、▲: 前方後円墳、↑: 指定時系列



杉谷4号墳の測量図